

宗教研究 第三七五号 目次

公開シンポジウム

ためされる宗教の公益

災害時における宗教者と連携の力……………稲場 圭信…三

宗教の公共力と復興……………岡田真美子…二六

祈りの公益性をめぐる試論……………小原 克博…一九

東日本大震災後の「絆」再興にみる

宗教の「ちから」……………鈴木 岩弓…三

デジュリとデファクトの公益……………中牧 弘允…二六

シンポジウム記録……………櫻井 治男…二七

研究報告

パネル

宗教学、社会学、民俗学の誕生

民族学と民俗学……………安藤 礼二…三

モース宗教社会学の生成……………溝口 大助…三

ベッタツツォーニ宗教史学の出发点……………江川 純一…三

パネルの主旨とまとめ……………安藤 礼二…三

宗教者側の実践活動から見えてくる

東日本大震災後の宗教学的課題

魂への配慮……………長谷川(間瀬)恵美…三

被災者支援において、

〈仏教的〉であるとはどういうことか？……………坂井 祐円…三

「再構築」への奉仕……………竹迫 之…三

パネルの主旨とまとめ……………新免 貢…四

伝統の危機とユダヤ教

翻訳聖書に見る「危機」解釈と克服……………大澤 耕史…四

「第二神殿崩壊」はいかに解釈されたか……………勝又 悦子…四

マイモニデス『イエメンへの手紙』考察……………神田 愛子…四

一九世紀東欧ユダヤ教の危機と

ハラハー的伝統の革新……………市川 裕…四

パネルの主旨とまとめ……………勝又 悦子…四

国家と宗教団体の葛藤の中で

戦後から沖縄本土復帰までの

宗務行政の諸問題……………石井 研士…四

沖縄占領と宗教法人……………中野 毅…四

琉球政府立法院の宗教法人法参考案……………大澤 広嗣…五

本土復帰による墓地、埋葬等に関する

法律の適用と現代的課題……………村上 興匡…五

パネルの主旨とまとめ……………石井 研士…五

目次

宗教史研究のフィールドワーク論

近代仏教研究における

文献史料と文化資料	岡田 正彦	五
佐田介石をめぐる史料調査とその重層	谷川 穰	五
私が資料について感じる二、三のこと	菊地 暁	五
正徳寺資料から見える戦前の仏教国際化	吉永 進一	五
パネルの主旨とまとめ	大谷 栄一	五

移民と宗教を結ぶホームランドへのノスタルジア

ハワイ日系宗教における

現地適応と「日本」	高橋 典史	六
日本人妻が出会った故郷	藤野 陽平	六
在日ムスリムの少女たちの		
エスニシティと複数の故郷	川崎のぞみ	三

想像・創造される場としての

プロテスタント教会	山田 政信	六
パネルの主旨とまとめ	藤野 陽平	六

「国家神道」における公共性と宗教性

「国家神道」研究の課題と展望	齊藤 智朗	六
神社対宗教問題に関する一考察	藤田 大誠	七
無格社整理と神祇院	藤本 頼生	七
今泉定助の思想	昆野 伸幸	七
パネルの主旨とまとめ	藤田 大誠	七

神祇伯白川家と伯家神道

諸国門人帳にみる白川家の門人	金光 英子	三
白川家の社祠勧遷と位階執奏	石川 達也	五
白川家門人斎藤彦磨と鎮魂祭	山口 剛史	五
初期禊教の展開と白川家	荻原 稔	五
パネルの主旨とまとめ	山口 剛史	七

戦後の日本仏教論

戦後日本仏教学説の課題	オリオン・クラウタウ	五
連続と断絶	桐原 健真	六
圭室諦成著『葬式仏教』再考	ライアン・ワルド	六
戦後日本仏教と民俗学	碧海 寿広	六
パネルの主旨とまとめ	オリオン・クラウタウ	三

宗教における死生観と超越

宗教的信における超越とその構造	澤井 義次	六
危機の体験と死生観の形成	中村 信博	六
ムカッラフ（能力者）概念をめぐる		
信仰告白表明と審判	四戸 潤弥	七

〈下への超越〉と〈将来する浄土〉

パネルの主旨とまとめ	高田 信良	六
	高田 信良・氣多雅子	六

宗教的「いのち」観の危機と課題

宗教と「いのち」言説	安藤 泰至	七
「いのち」を生きさるゝことの困難	大河内大博	七

目次

「選択」から「応答」へ……………	空閑 厚樹……………	三
「いのち」が語られる地平……………	竹之内裕文……………	五
パネルの主旨とまとめ……………	安藤 泰至……………	五
大震災の問う物質と靈魂		
初期ジャイナ教の生物観……………	杉岡 信行……………	七
バイオリージョンの視点から見た		
日本の風土と信仰……………	永原 順子……………	九
崇り神としての放射能……………	實川 幹朗……………	九
モノたちとの共生きと癒し……………	戸田 游晏……………	一〇
パネルの主旨とまとめ……………	戸田 游晏……………	一〇
公共空間における宗教的ケアのあり方		
ケアにおける宗教性再考……………	高橋 原……………	一三
米国の病院チャプレンにみる		
公共空間での宗教的ケアの在り方……………	小西 達也……………	一四
医療現場の宗教者からみえてくる		
宗教的ケア……………	森田 敬史……………	一六
被災地から見た		
「臨床宗教師」の可能性と課題……………	谷山 洋三……………	一七
パネルの主旨とまとめ……………	高橋 原……………	一八
東日本大震災後における〈いわき市〉と宗教		
地域構造と宗教分布……………	星野 壮……………	一九
現地の宗教者の意識と支援活動……………	齋藤 知明……………	二一
伝統教団内の支援のネットワーク……………		
新宗教の震災対応……………	寺田 喜朗……………	二三
パネルの主旨とまとめ……………	寺田 喜朗……………	二四
災害の語りの宗教学		
記紀が描く罪と災害……………	平藤喜久子……………	二六
江戸時代の災害の語り……………	松村 一男……………	二七
東日本大震災後の語り……………	竹沢尚一郎……………	二八
パネルの主旨とまとめ……………	松村 一男……………	二九
日韓宗教文化のトランスナショナリティ		
韓国における社会変動と日系新宗教の布教……………	李 賢京……………	三三
韓国のメディアを通じてみる「倭色」宗教……………	諸 点淑……………	三三
在日大韓基督教会と		
韓国系キリスト教会の日本宣教……………	中西 尋子……………	三三
朝鮮学校教員家族における祖先祭祀……………	猪瀬 優理……………	三四
パネルの主旨とまとめ……………	櫻井 義秀……………	三五
アジアの宗教と教育		
戒律規定と沙弥教育……………	龍口 明生……………	三六
オーストラリアの教育論……………	北川 清仁……………	三八
中国仏教の唱導……………	宮井 里佳……………	三九
日本の仏教教育……………	岩瀬真寿美……………	四〇
パネルの主旨とまとめ……………	西尾 秀生……………	四一

目次

日本人の宗教性を問う	藤 能成……三
韓国の宗教事情と日本人の宗教性	那須 英勝……三
アメリカの宗教事情と日本人の宗教性	寺本 知正……三
ヨーロッパの宗教事情と日本人の宗教性	長岡 岳澄……三
寺院の役割と日本人の宗教性	伊東 秀章……三
ビハラ活動と日本人の宗教性	藤 能成……三
パネルの主旨とまとめ	
ポスト世俗主義と公共性	磯前 順一……四
総論 ポスト世俗主義と公共性	藤本 龍児……四
欧米における世俗主義と公共性	金 泰勲……四
植民地朝鮮における世俗主義と公共性	島蘭 進……四
日本における世俗主義と公共性	藤本 龍児……四
パネルの主旨とまとめ	
第一部会	
エサルハドンの「宗教改革」	渡辺 和子……四
シェリングとレッシングにおける	
自然的宗教について	諸岡道比古……四
サンタヤーナと自然的宗教	庄司 一平……四
ルドルフ・オットーにおける	
宗教と社会問題	藁科 智恵……四
ハイラーの祈り論の現代的意義	宮嶋 俊一……五
フォーマットとしての宗教施設	松野 智章……五
多元主義の社会的文脈における	
作用実態と将来への展望	渡辺 光一……五
宗教研究におけるライフストーリーの	
方法論的意義について	宮本要太郎……五
ポルピュリオス『ニユンペーの洞窟』に	
おける神話解釈	小野 隆一……五
プロクロスにおける	
「神に似ること」の問題	土井 裕人……五
宗教伝統の倫理的意義をめぐる一考察	飯田 篤司……五
宗教の現実態と宗教の諸研究	小田 淑子……五
幸福の宗教学	関 一敏……五
自然概念にまつわる言説空間	近藤 光博……五
「自然的救済論／救済論的自然」の概念	深澤 英隆……五
魔女とバロック	黒川 正剛……五
『魔女への鉄槌』に見る悪魔像の構成	野村 仁子……五
市民宗教再考	伊達 聖伸……五
一九世紀アメリカ合衆国の健康と宗教実践	佐藤 清子……五
黒人運動にみる宗教的家族組織の形成	小池 郁子……五
ブラック・ディアスポラの宗教運動における	
「黒人」概念の変遷	上間 励起……五
エリアーデにおける学問と芸術の一体性	藤井 修平……五
在ポルトガル・ルーマニア大使館における	
エリアーデの宗教思想	奥山 史亮……五

目次

第二部会

「女性神秘家」における理性と経験……………村上 寛……………一三	スピノザにおける無知としての奇跡……………大野 岳史……………一四	デウスからナトゥーラへ……………加藤 喜之……………一五	カント哲学における信仰の概念……………南 翔一朗……………一七	美的仮象と遊戯……………田口 博子……………一七	ジェイムズにおける信じる意志の射程……………林 研……………一七	ヤスパースの	「未来における信仰」について……………藤田 俊輔……………一八	フランツ・ローゼンツヴァイクの思想に	おける祈りの問題……………丸山 空大……………一八	存在と情動……………伊原木大祐……………一八	神秘体験と記述に対する一考察……………赤羽 優子……………一八	ハンナ・アーレントにおける	「赦し」論の展開……………本間 美穂……………一八	メルロ・ポンティと祈り……………松田健三郎……………一八	創世記二二章における	地名モリヤの文学的機能……………岩寄 大悟……………一七	語られた言葉と書かれた言葉……………堀川 敏寛……………一八	「ヨシヤの改革」と聖書外資料……………高橋 優子……………一八	幻視と夢の図像学……………細田あや子……………一八	偽ニュッサのグレゴリオス	「聖書選文集」における律法理解……………高橋 博厚……………一八
----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------	---------------------------------	--------------------------	----------------------------------	--------	---------------------------------	--------------------	---------------------------	------------------------	---------------------------------	---------------	---------------------------	------------------------------	------------	------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	---------------------------	--------------	----------------------------------

アウグステイヌスの時間論に於ける

過去と未来について……………山田庄太郎……………一三

再臨運動とホーリネス・リバイバル……………黒川 知文……………一四

ユリアヌスの宗教観と宗教政策における

「宗教の公益性」……………中西 恭子……………一五

第三部会

アンセルムスにおける affectio について……………矢内 義顕……………一七

マイスター・エックハルトにおける

神の言述可能性について……………松沢 裕樹……………一八

エックハルトの「永遠」理解……………田島 照久……………一九

「推測」と〈否定神学〉……………島田 勝巳……………二〇

ルネサンスの神話解釈……………下野 葉月……………二〇

ジャンセニウスの

「純粹本性の状態」概念批判……………林 伸一郎……………二二

神学的後衛としてのエルンスト・トレルチ……………小柳 敦史……………二四

テイリツヒの宗教社会主義思想……………宮崎 直美……………二五

正義の重荷と恵み……………今出 敏彦……………二六

一九一三年のR・ブルトマン……………深井 智朗……………二七

アメリカの新聞からみる

ラインホルド・ニーバー……………澤井 治郎……………二九

現代キリスト教における

死後世界論の意義について……………方 俊植……………三〇

内観と悲哀……………寺尾 寿芳……………三一

目次

Corpora incorrupta に関する

思想史的考察……………	ジョン・モリス…三二
対抗言説としての Conspiracy Theory……………	辻 隆太郎…三三
共同体の紐帯……………	近藤 洋平…三四
イスラームの制度化と宗教界の再構成……………	堀 彩子…三六
ポスト・スハルト期インドネシアの	
リベラル・イスラームの展開……………	蓮池 隆広…三七
グローバル化時代のイスラームにおける	
ハラール概念の展開……………	八木久美子…三八
F・シュオンとW・C・スミス……………	中村廣治郎…三九
コプト教会と総主教……………	岩崎 真紀…四〇
中世ユダヤ教の聖書解釈における	
基準の問題……………	志田 雅宏…四二

第四部会

『金剛般若経』における	
即非の論理と「如」の思想……………	末村 正代…三三
『雑阿毘曇心論』業品における	
無間業の壊僧について……………	智谷 公和…三四
無表業の相続問題……………	日比 佑香…三五
『大乘莊嚴経論』菩提品の成立について……………	田口 恵敬…三六
六朝〜唐代の仏教系散逸医書と伝存医書に	
見る医方の伝承関係……………	多田 伊織…三八
凡夫と大乘菩薩道……………	溪 英俊…三九
中国撰述の諸清規における葬送と唱衣法……………	金子 奈央…四〇

三諦説における

デイヴィッドソン哲学の位置づけ……………	渡辺 隆明…三三
法華経の成立過程についての一試論……………	西 康友…三三
バーヴィヴェーカによる	
自性 (svabhāva) 批判……………	兼子 直也…三三

アティシヤの顕教文献において

言及される密教文献……………	望月 海慧…三四
古代インドにおける祖先祭祀と女性の関与……………	虫賀 幹華…三六
古典インド医学書における浄・不浄の概念……………	森口 眞衣…三七
翻訳された理想の女性像……………	榊 和良…三八
ヒンドゥー教寺院の内陣について……………	出野 尚紀…三九
インドの歴史教科書における	
ヒンドゥー・ナシヨナリズムの叙述……………	澤田 彰宏…四〇
シュリーマッド・ラージチャンドラにおける	
ジャイナ教思想……………	間 永次郎…四二
北インド・ゴーガー神信仰の	
位置づけをめぐる一考察……………	拓 徹…四三
諸宗教間対話は進んでいるか……………	高橋 勝幸…四四

第五部会

親鸞における聖徳太子像について……………	内記 洸…四五
親鸞における果遂の誓について……………	杉田 了…四六
親鸞聖人の『華嚴経』観……………	永原 智行…四八
親鸞浄土教における光の形而上学的意義……………	安藤 章仁…四九

目次

『教行信証』における	林 智康…二五〇
阿闍世の救済と逆謗除取	御手洗隆明…二五三
近代以前親鸞伝における善鸞像	川野 寛…二五三
存覚上人と法華	谷口 智子…二五三
存覚『報恩記』における	西原 法興…二五五
父母に対する報恩思想	清沢満之の宗教哲学における宗教起源論について…二五五
大瀛の三業帰命説批判	ベルナット・マルティ・オロバル…二五五
清沢満之の宗教哲学における宗教起源論について	春近 敬…二五五
近代真宗の法蔵菩薩詮釈に関する一考察	陳 敏齡…二五五
親鸞聖人七五〇回遠忌報恩大法会の実施報告について	藤喜 一樹…二五五
九条道家の宗教生活	龍口 恭子…二五五
道元禅師の修証観	清藤 久嗣…二五五
道元の密受心印について	石井 修道…二五五
癡元大慧の禅密思想	高柳さつき…二五五
関山国師と大灯録	木村 俊彦…二五五
鈴木大拙と仙厓	嶋本 浩子…二五五
鈴木大拙の妙好人解釈	蓮沼 直應…二五五
東西霊性交流における「霊性」の問題	峯岸 正典…二五五
白山	小林 一葵…二五五
『日本霊異記』における仏教について	前島 康佑…二五五

第六部会

『叡山大師伝』をめぐる諸問題	前川 健一…二七三
神秘思想から超越へ	前田 禮子…二七四
幸西と証空における信	那須 一雄…二七五
良忠の本願観	沼倉 雄人…二七六
日蓮研究に関する方法論上の再検討	笠井 正弘…二七六
仏典にみる五障三従説とその超克	穂坂 悠子…二七九
日蓮の朝鮮仏教認識	福士 慈稔…二八〇
日興とその門弟の往来に関する一考察	本間 俊文…二八一
身延日意目録に関する一考察	木村 中一…二八二
敬台院万姫と法華信仰	長倉 信祐…二八三
近世日蓮宗の寺檀制度再考	坂輪 宣政…二八五
書肆・加賀屋善蔵と日蓮聖人伝の出版	堀部 正円…二八六
長松日扇における教化活動の一考察	武田 悟一…二八七
藤井日達の仏教アジア主義とマハトマ・ガンディーの近代文明批判	外川 昌彦…二八八
修験道系柱松行事の行われる場	由谷 裕哉…二九〇
木曾三川十六輪中における灌漑用の自噴井と水神	下本英津子…二九一
宮崎県山間部における狩猟のしきたり	鈴木 良幸…二九二
真宗「地帯」の再考	亀崎 敦司…二九三
宗教民俗学における現世利益信仰の位置	阿部 友紀…二九四
よさこい系祭りの組織的特徴	芳賀 学…二九五
グローバル社会における民衆宗教	井上 大介…二九七

目次

日本仏教のアメリカ化の諸相	釋氏 真澄	二五八
---------------	-------	-----

第七部会

宗教的観点からの森林の思想と価値	神守 昇一	二五九
古代神宮祭祀における聖体示現	新田佳恵子	三〇〇
上代における祈りの変容	白江 恒夫	三〇二
相嘗祭の一考察	富田 実	三〇三
近世期における西京神人と御供所	吉野 亨	三〇三
伊勢信仰と民間における風鎮め	小出亜耶子	三〇五
神道祭祀における		
祝詞奏上と玉串奉奠について	竹内 雅之	三〇六
近代の御師制度廃止と伊勢信仰について	八幡 崇経	三〇七
藤樹と蕃山の		
経典(大学・孝経)解釈の違いについて	鈴木 保實	三〇八
山崎闇斎と『日本書紀』神代卷	孫 傳玲	三〇九
若林強斎の祭政一致論	齋藤 公太	三一
本居宣長における儒仏伝来の「記述」	森 和也	三二
平田篤胤の『黄帝伝記』について	坂出 祥伸	三三
所謂神基習合神道をめぐる一考察	三ツ松 誠	三四
堀秀成の思想と行動	小林 威朗	三五
宮地神道とは何であったのか	黒田 宗篤	三六
石門心学における宗教体験とその言説	澤井 努	三八
経営倫理における石門心学の意義	中道 豪一	三九

第八部会

形なき「安心」	島田雄一郎	三〇
明治期における祖先観の形成	問芝 志保	三二
久米邦武のキリスト教観	西田みどり	三三
帝国日本における		
寛克彦の神道思想とその影響について	西田 彰一	三四
前期西田哲学における「意識」の問題	秋富 克哉	三五
西田幾多郎「場所」論の宗教的意義	杉本 耕一	三六
西谷啓治の		
「根源的構想力の発動」について	小野 真	三七
明治期キリスト教と巡礼ツーリズム	岡本 亮輔	三八
内村鑑三の神名解釈	渡部 和隆	三〇
矢内原忠雄と新渡戸稲造	森上 優子	三一
近代日本思想の宗教テクスト解釈	飯島 孝良	三二
近代における仏教者のキリスト教観	岩田 真美	三三
「大逆」の僧・高木顕明の		
往還二回向理解について	菱木 政晴	三五
斎藤茂吉と浅草寺	小泉 博明	三六
戦後地域社会における皇族崇敬の検討	茂木謙之介	三七
近代中国仏教における末法思想と		
亡国論の関係について	エリック・シッケタンツ	三八
井筒俊彦においての禅思想と		
その理解	ファン・ホセ・ロペス・パソス	三九

目次

第九部会

供養あるいは慰霊	浅野 章	三二
室町時代における戦死者慰霊	山田 雄司	三三
江戸の笑いと死	大村 哲夫	三三
地藏盆と両墓制	清水 邦彦	三四
葬送倫理試論	近藤 剛	三五
青葉園にみる戦後日本における		
死者への公益性と死の公共性	土居 浩	三六
現代の霊場における供養の実態	徳野 崇行	三七
「生・死・死後」の色のイメージ	久保田 力	三八
看取りの前後における		
宗教民俗的な体験・想像・語り	相澤 出	三九
看取りの文化考	井藤美由紀	三九
現代韓国における自然葬の思想	田中 悟	四〇
戦没者慰霊の一考察	白山芳太郎	四一
シュヴァイツァーにおける生命観の諸問題	岩井謙太郎	四二
人工妊娠中絶をめぐる		
神学的議論についての一考察	朝香 知己	四五
生命倫理言説の日韓比較	金 律里	五〇
代理母出産と仏教的生命観	金 永晃	五一
第十部会		
サステイナビリティと自然農法	木村 武史	五五

岩倉大雲寺妙見の瀧における

精神医療をめぐる	河東 仁	六〇
幻聴と宗教	大宮司 信	六一
マインドフルネスと依存症のケア	葛西 賢太	六二
医療と宗教における人間観の問題	杉岡 良彦	六四
二重の概念図式理論から考える宗教と科学	谷内 悠	六五
生命の起源	十津 守宏	六六
明治大正期における		
中国哲学の構築と静坐の実践	野村 英登	六七
「みかぐらうた」から見る身体技法の翻訳	永松 和郎	六八
伝統医療と社会福祉	岡光 信子	七〇
一九二〇―四〇年代「精神療法」のなかの		
白井式靈氣療法	平野 直子	七一
サイコロジカル・ファーストエイドにおける		
宗教の役割	井上ウイマラ	七三
法華山一乗寺巡礼札からみる		
西国巡礼者の出身地域について	幡鎌 一弘	七三
江戸時代前期の遍路道再現	柴谷 宗叔	七四
説経節を読む	千葉 俊一	七六
職人巻物の宗教性	小池 淳一	七七
渋谷区所蔵の伝・食行身祿書簡	大谷 正幸	七八
琉球王朝における		
植物のシンボリズムと聖地	平良 直	七九
琉球風水の装置としての村獅子について	鈴木 一馨	八〇

目次

沖縄の御嶽と年中行事に関する一考察

ヒュウエンドリン・ファン・デル・フォールスト……三二

仏教とカウンセリングの接点……友久 久雄……三三

核燃料発電と仏教……工藤 英勝……三四

第十一部会

無常のシンボリズム……長崎 誠人……三五

震災死と宗教の役割……何 燕生……三六

災害時帰宅ステーションとしての

寺院の可能性について……関戸 堯海……三八

弘化四年善光寺地震に学ぶこと……小林 順彦……三九

「羽田七福いなり」のおかれた

土地環境と自然災害の関係……深田伊佐夫……四〇

祭祀行事を媒介とした復興支援のゆくえ……板井 正斉……四一

イスラーム系NGO・HFによる

東日本大震災支援活動……嶺崎 寛子……四二

ポスト災害社会における宗教……木村 敏明……四三

霊場の意味付と顕在化する「違和感」……天田 顕徳……四四

空想的社会主義と

近代スピリチュアリズムのあいだ……津城 寛文……四六

インターネットにみる流行神……黄 緑萍……四七

政治権力と宗教権威……米井 輝圭……四八

協働表象(論)の基礎的考察……永岡 崇……四九

自然悪概念の宗教哲学的再解釈は可能か?……佐藤 啓介……五〇

ハイデッガーにおける自然災害の問題……田鍋 良臣……五二

第十二部会

キルケゴールにおける地域主義の問題……須藤 孝也……五三

呪詛と自己犠牲……中里 巧……五四

ニーチェにおける社会性と虚栄心の問題……木原 英史……五五

ルドルフ・シュタイナーのキリスト観……西井 美穂……五七

二人称としての神……田島 卓……五八

ミシェル・アンリとキリスト教……古荘 匡義……五九

理性と文化の関係について……八巻 和彦……六〇

イタコたちの現在……原 英子……六一

巫者の呼称に関する一考察……村上 晶……六三

大衆文化としての〈イタコ〉と

オカルトブーム……大道 晴香……六四

宗教者の性格と役割について……佐藤 憲昭……六五

幽霊能における告白……今泉 隆裕……六六

祖霊を「作る」儀礼……松平 勇二……六七

巫者の守護霊……川上 新二……六八

第十三部会

「梅小路」を通じて「宗教」を伝えるには……太田 俊明……七〇

宗教的問い「何」「何事」考……小山 一乗……七一

学校における瞑想実践……得丸 定子……七三

トルコの宗教教育とアレヴィー教育……佐島 隆……七三

ドイツにおける宗教教科の歴史……石川 智子……七四

目次

明治期・真宗大谷派における	
高等教育就学実態について	江島 尚俊…四六
日系アメリカ人と仏教教育	本多 彩…四七
新宗教教団の展開過程における	
「宗教境界」の更新	佐藤 洋…四八
アランタ研究黎明期	飯嶋 秀治…四九
英国植民地期サラワクにおける	
アダットの成文化	土佐美菜実…五〇
タイ上座仏教と国家	矢野 秀武…五三
バッファゾーンのチベット仏教	別所 裕介…五三
シェンラブ伝に於ける孔子の位置	津曲 真一…五四
ナオジヨテから見た	
パールシー・コミュニティ	香月 法子…五四
ドイツのヒンドウ教	山下 博司…五五
ロバート・スミッソンのアースワーク	中島和歌子…五七
第十四部会	
宗教性の行動と社会貢献	濱田 陽…四六
宗教専門紙が報じる過疎問題	冬月 律…四九
沖縄の米軍返還地における	
村落祭祀とコミュニティ再編	越智 郁乃…四一
ソーシャルキャピタルとしての	
天理教里親活動	金子 珠理…四三
「道の台」と天理教の女性	堀内みどり…四三
個の社会の和様化	川上 光代…四四

現代都市生活における共存と神社の関わり	黒崎 浩行…四五
知的障害者のグループホーム	
〈ラルシュ〉を支える倫理と実践	寺戸 淳子…四六